



平成30年10月23日

平成30年度第6回定例記者会見

日時：平成30年10月23日（火） 11:00～12:00

場所：豊橋技術科学大学事務局3階 大会議室

<記者会見項目>

- ① まるでコンビニ店員！？陳列ロボットで World Robot Challenge 出場
【機械工学系 佐野 滋則 准教授】（別紙1参照）
- ② 未来の家庭用ロボットを目指して
World Robot Challenge パートナーロボットチャレンジ（リアルスペース）
3位入賞&人工知能学会賞受賞
【情報・知能工学系 三浦 純 教授】（別紙2参照）
- ③ マレーシア科学大学・マレーシアクランタン大学と共同で
グローバルサマースクールを開催しました。
【情報・知能工学専攻博士前期課程1年 松崎成道】
【情報・知能工学専攻博士前期課程1年 谷山祐真】（別紙3参照）
- ④ TUT グローバルハウスと地元企業との交流会 第3弾！
「レコグナイト RecogNight」開催のお知らせ（with 豊橋鉄工会）
【スーパーグローバル大学推進室】（別紙4参照）
- ⑤ 国際交流関係のお知らせ
【国際課留学生係】（別紙5参照）
- ⑥ 本多プラス株式会社代表取締役社長 本多孝充 氏を迎え
「デザイン戦略で脱下請け！ブランド企業への躍進！」
と題し講演会を開催します。
【総務課総務係】（別紙6参照）
- ⑦ 平成30年度定例記者会見の開催日程について（別紙7参照）

<本件連絡先>

総務課広報係 菅谷・高柳・梅藤

TEL:0532-44-6506 FAX:0532-44-6509



平成30年10月23日

まるでコンビニ店員！？ 陳列ロボットで World Robot Challenge 出場

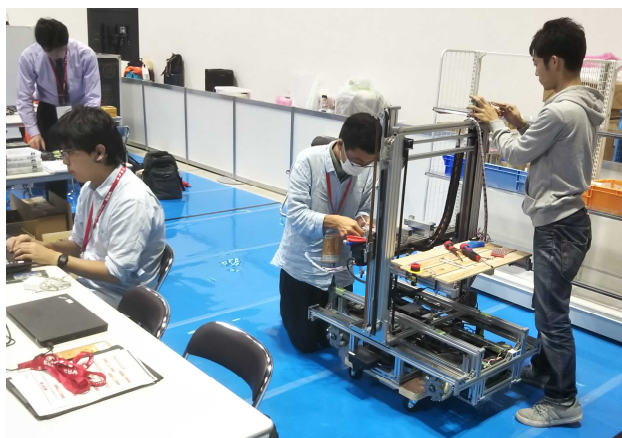
<概要>

本学のものづくりサークルの学生2名（機械工学課程4年生 町田貴洋、3年生 矢田了）は、新東工業株式会社間宮祥太郎氏をリーダーとする合同チーム（チーム名：ST）として、10月20日に開催される World Robot Challenge（フューチャーコンビニエンスストアチャレンジ部門陳列廃棄タスク）に参加します。この競技会は、経済産業省・NEDOが主催する World Robot Summit 2018 のイベントのひとつであり、競技内容はコンビニの弁当、おにぎり、飲み物を各2種類、コンテナから陳列棚に並べるタスクと、陳列棚に散らばった2種類のサンドイッチについて賞味期限切れのものをコンテナに回収しつつ、きれいに陳列棚に並べるタスクの両方を行うものです。

製作したロボット

【特長】

- ・メカナムホイールを4輪使用した全方向移動台車
- ・ハンドはXYZステージにより移動
- ・商品の把持は吸引
- ・ARコードによりサンドイッチの種類、賞味期限を判別



記者会見当日は、実際のロボットを展示するとともに、動画にてロボットの紹介、及び、結果をご報告させていただく予定です。

本件に関する連絡先

担当：機械工学系准教授 佐野 滋則 TEL:0532-44-6677

広報担当：総務課広報係 菅谷・高柳・梅藤 TEL:0532-44-6506

まるでコンビニ店員！？ 陳列ロボットで World Robot Challenge出場

機械工学系（ものづくりサークル顧問）

佐野 滋則

World Robot Challenge とは

- 名古屋で2020年に開催されるWorld Robot Summit 2020のプレ大会
World Robot Summit 2018のイベントのひとつ



フューチャーコンビニエンスストアチャレンジ

1. 陳列・廃棄タスク

日常商品（おにぎり、お弁当など）の自動補充および消費期限切れ商品の廃棄を行います。

2. 接客タスク

ロボット技術を利用した近未来の洗練された顧客サービスの提案と実演を行います。

3. トイレ清掃タスク

個室トイレの便器、床、壁の清掃を行います。

1. 弁当、おにぎり、ドリンクを2種類ずつ陳列(50点)
 1. 弁当A 3個, 弁当B 1個
 2. ドリンクA 2個, ドリンクB 2個
 3. おにぎりA 3個, おにぎりB 1個
2. 8個のうち、廃棄対象4個を回収, 残り4個を陳列(50点)
 1. 2種類のサンドイッチが4個ずつ(A-Hのナンバリング)
 2. 廃棄対象は直前に発表
3. 準備から競技終了まで持ち時間は20分

参加チーム

フューチャーコンビニエンスストアチャレンジ (23チーム)

国籍・地域/所属はチームリーダーの情報です。

チーム名	国籍・地域	所属	チーム紹介ビデオ
MeiBlue	Japan	Meijo Univ.	-
Happy Mini @ Girls Art Project	Japan	D.K.T. corp	-
Kobayashi-Suzuki Lab	Japan	Aichi Prefectural Univ.	-
Happy Robot	Japan	Kanazawa Inst. Technology	-
ROC2	Japan	OMRON.corp	-
TAK	Japan	Tokyo Metropolitan University	-
OCU-KDEL	Japan	Osaka City UNIV.	-
TIMDA	TAIWAN	Tamkang University	-
NAIST-RITS-Panasonic	Japan	Nara Institute of Science and Technology	-
Extreme Q-ban Boys	Japan	Kobe City College of Technology	-
ST	Japan	SINTOKOGIO, LTD.	-
H3	Japan	Human Robot Analysis Inc.	-
KABUTOMUSHI	Japan	Private	-
MIRAI	Japan	J&C Business Consulting Co.,Ltd.	-
HSRL-CoR	Japan	Osaka Electro-Communication UNIV.	-
CSC of National Defense Academy	Japan	National Defense Academy UNIV.	-
KameRider	China	-	🇨🇳
TCR	Japan	Connected Robotics Inc	-
HARCHuo	Japan	Chuo UNIV.	-
Hi-KCCT	Japan	Hitachi, Ltd. Reserch & Development Group	-
U.T.T.	Japan	TOSHIBA Corp.	-
TeaM Ususama	Japan	Tokyo Metropolitan University.	-
homer@UniKoblenz	Germany	University of Koblenz	🇩🇪

チームメンバー

SINTOKOGIO **T**oyohashi University of Technology

Shotaro MAMIYA SINTOKOGIO, LTD.

Makio SUZUKI SINTOKOGIO, LTD.

Ryo YADA Toyohashi University of Technology

機械工学系学部3年生

Shinichiro SHIRAI SINTOKOGIO, LTD.

Shigenori SANO Toyohashi University of Technology

Takahiro MACHIDA Toyohashi University of Technology 機械工学系学部4年生

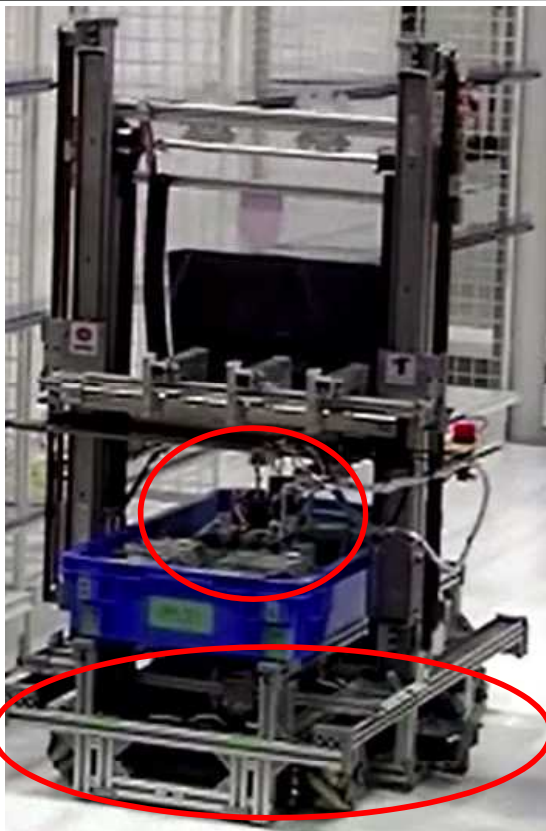
Yanyan YANG SINTOKOGIO, LTD.



参加の経緯

- 新東工業株式会社が参加を決定
- 豊橋技術科学大学の学生との合同チームでの参加の意向
- 私が顧問をしているロボコン同好会，ものづくりサークルから有志を募集
- 3月中旬 参加申し込み
- 4月中旬 選考の結果，参加確定
- 5月下旬 本格始動
- 10月20日 大会

製作したロボット



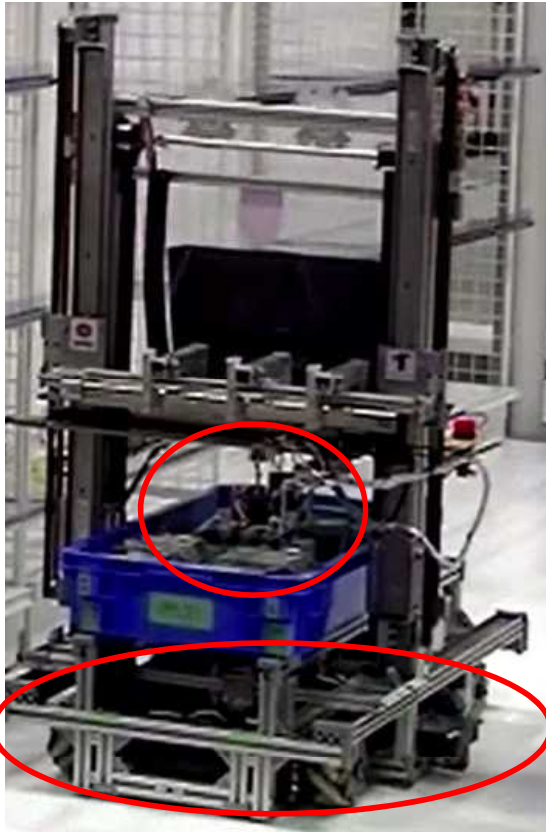
XYZステージによる
ハンドの移動

ARコード・カメラによる
商品情報取得

吸引による商品把持

メカナムホイールによる
4輪全方向移動台車

製作したロボット



XYZテーブルによる
ハンドの移動

ARコード・カメラによる
商品情報取得

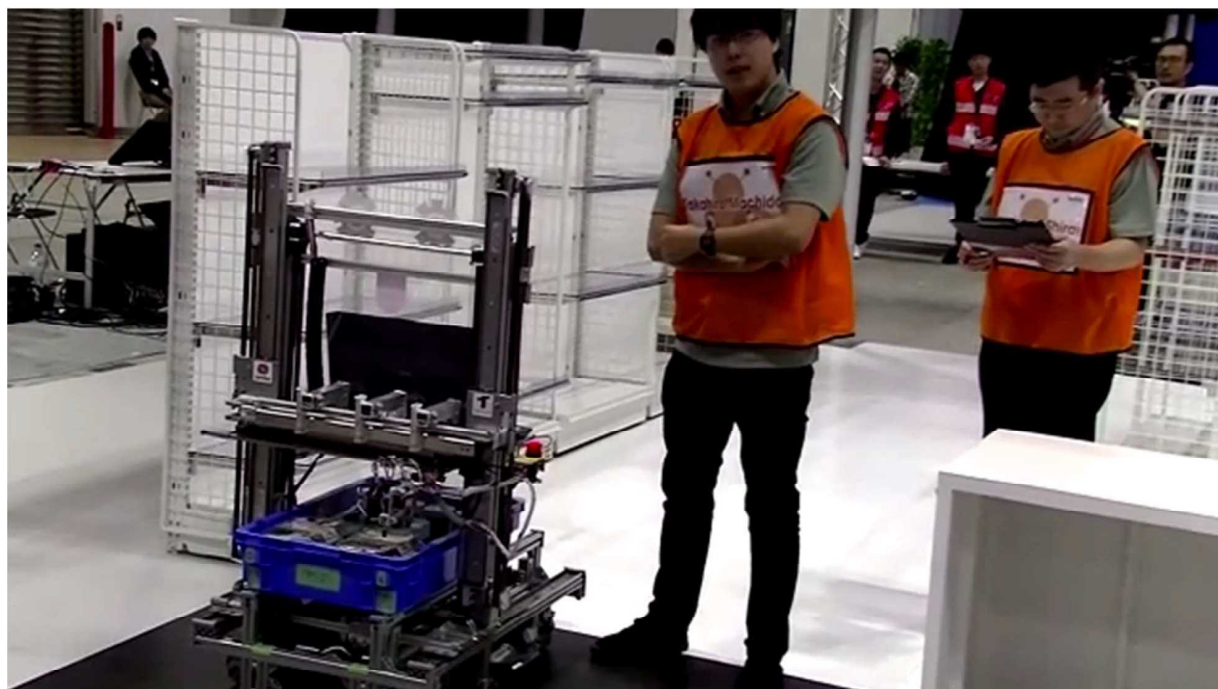
吸引による商品把持

メカナムホイールによる
全方向移動

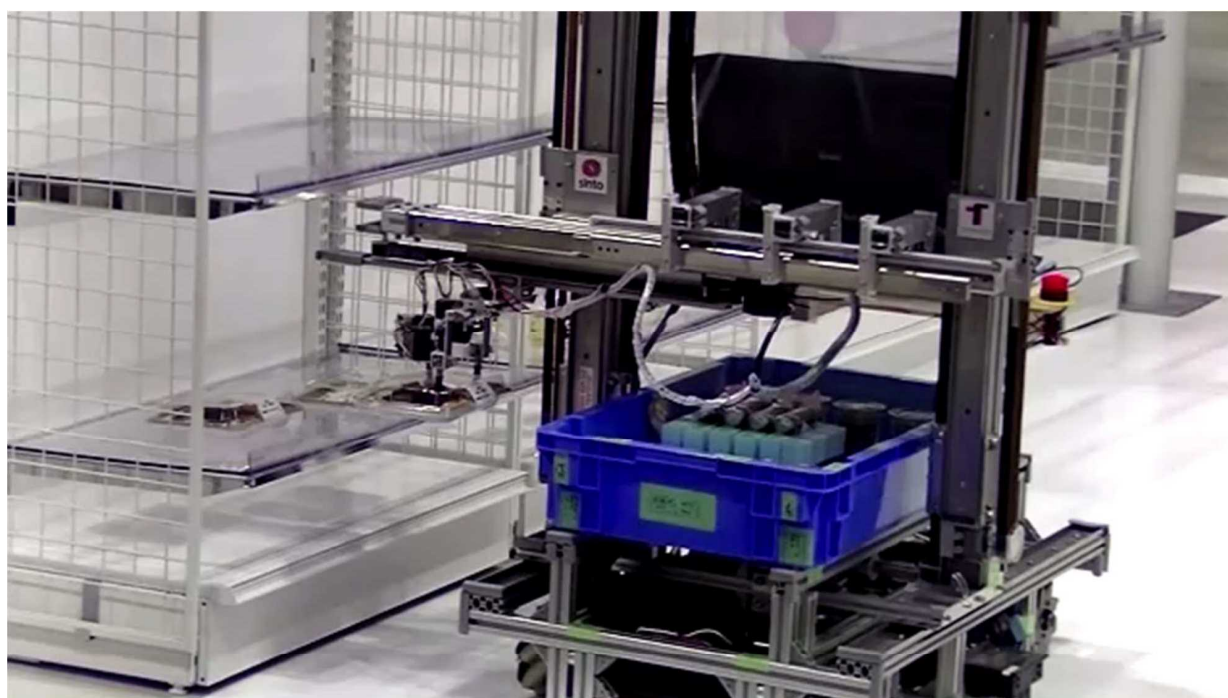
準備



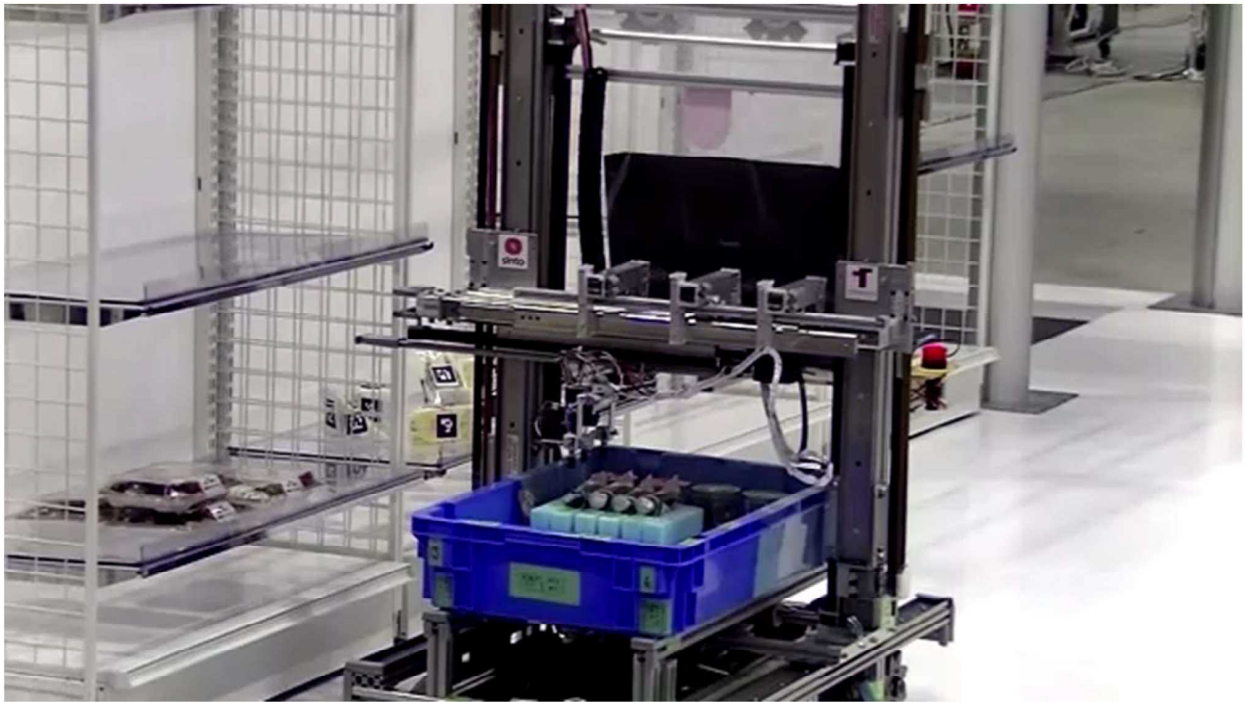
弁当陳列（1）



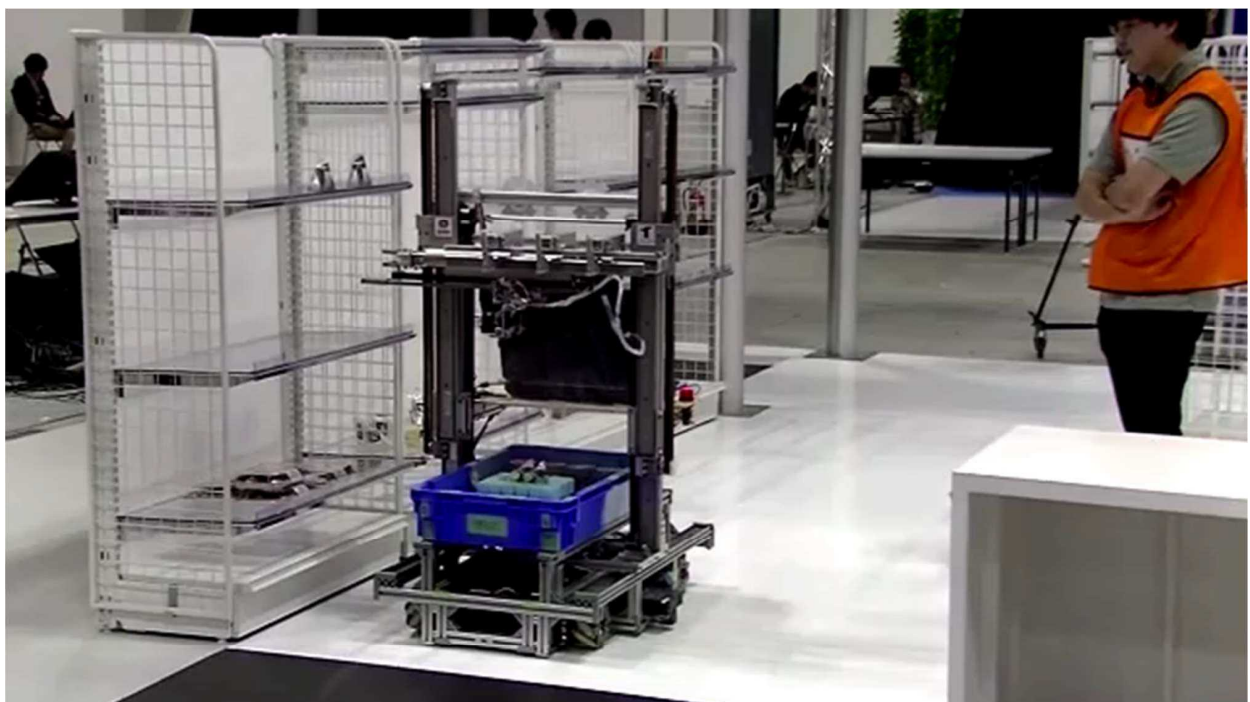
弁当陳列（2）



おにぎり陳列



ドリンク陳列



最終結果

- 得点 40点（14チーム中8位）
- 本大会（2020年名古屋）では，陳列廃棄タスクだけでなく，トイレ清掃タスクや接客タスクにも挑戦予定



平成30年10月23日

未来の家庭用ロボットを目指して
World Robot Challenge パートナーロボットチャレンジ（リアルスペース）
3位入賞&人工知能学会賞受賞

<概要>

本学の情報・知能工学系 行動知能システム学研究室（三浦研究室）のメンバからなるチーム（チーム名：AISL-TUT）は、10月17日～21日に開催された World Robot Challenge に参加し、パートナーロボットチャレンジ（リアルスペース）部門で3位入賞（を果たすとともに人工知能学会賞を受賞しました。この部門は未来の家庭用ロボットの目指す方向や課題を共有し議論することを目的としています。

<詳細>

本学の情報・知能工学系 行動知能システム学研究室（三浦研究室）のメンバ6名からなるチーム（チーム名：AISL-TUT、チームリーダー：情報・知能工学専攻国際コース博士後期課程1年 Liliana Villamar Gómez、副チームリーダー：同専攻博士前期課程1年松崎成道）は、10月17日～21日に東京ビッグサイトで開催された World Robot Challenge に参加し、「パートナーロボットチャレンジ（リアルスペース）」部門で3位入賞を果たしました。また、各競技の参加チームに対して関連分野の学会から授与される賞の一つである、人工知能学会賞を受賞しました。

この競技会は、経済産業省・NEDO が主催する World Robot Summit 2018 のイベントの一つであり、上記部門の競技内容は、家庭用の片付けや運搬のタスクの実行能力を示す“Skill Challenge”と、最新の研究成果を使って未来の家庭用ロボットをプレゼンと実演で示す“Show me the future”からなり、それらの合計点で競います。

この競技では、全チームが同じロボット（トヨタ自動車㈱の開発した HSR (Human Support Robot)）を貸与され、そのロボットを用いて競技に参加します。特に“Skill Challenge”においては、ノートPCを1台のみ追加で使うことはできますが、センサ等の新たな機器を追加することは許されていません。したがって、各チームはソフトウェアの優劣を競うこととなります。チーム AISL-TUT では画像認識やハンド動作計画、そして音声認識等の機能を実現するソフトウェアモジュールを開発し、それらを組み合わせることにより全体のソフトウェアを構築し、“Skill Challenge”に臨みました。また、“Show me the future”では、“Living with a robot - Robotic lifestyle support of the future（邦訳：ロボットと暮らす：ロボットによる未来の生活支援）”と題して、未来のロボットに見守られながら暮らす状況を想定して、プレゼンテーションと人の姿勢認識技術を用いた見守りのデモンストラクションなどを行いました。



(a) 指示された物体を
検出し、手を伸ばす。



(b) ユーザーに手渡す



(c) 人の姿勢認識の
デモンストレーション

競技の様子 ((a)、 (b): "Skill Challenge", (c): "Show me the future")

<今後の展望>

World Robot Challenge のような競技会では、近い将来に達成したいロボットのタスクを設定し、それに向けて各チームが競い合うことにより、個々の技術レベルの向上を図るとともに、将来目指すべき方向や現状の課題を共有し議論することを目的としています。2年後の2020年10月にはWorld Robot Summit 2020が愛知県国際展示場（*）で開催されることが決まっており、今回同様の競技会も同時に開催されます。当研究室では、将来のパートナーロボットの実現に向け、このような競技会等での評価も利用しながら、必要な技術の開発を行っていきたいと考えています。

（*）2019年9月に完成予定。なお、一部のインフラ・災害対応競技は8月に福島ロボットテストフィールドで開催予定。

本件に関する連絡先

担 当：情報・知能工学系教授 三浦 純 TEL:0532-44-6773

広報担当：総務課広報係 菅谷・高柳・梅藤 TEL:0532-44-6506

WRC (World Robot Challenge) 2018 参加報告

チーム AISL-TUT

豊橋技術科学大学 情報・知能工学系
行動知能システム学研究室（三浦研究室）

(*) AISL: Active Intelligent Systems Laboratory
(研究室名の英語名称)

World Robot Challenge 2018

■ World Robot Summit (WRS)

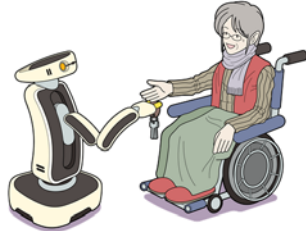
- 経済産業省・NEDO主催
- ロボットの活躍が期待されるさまざまな分野での競技会と展示会
 - World Robot Expo (WRE) : 最新技術の展示会
 - World Robot Challenge (WRS)
 - 4カテゴリ（ものづくり，サービス，インフラ・災害対応，ジュニア），9競技
 - 今回，サービスカテゴリの「**パートナーロボットチャレンジ（リアルスペース）**」に参加



競技会場

■ スキルチャレンジ (Skill Challenge)

- 2つのタスクで得点を競う



Bring Me (あれ、取ってきて)



Tidy Up Here (お願い、片付けて)

<http://worldrobotsummit.org/wrc2018/service/>

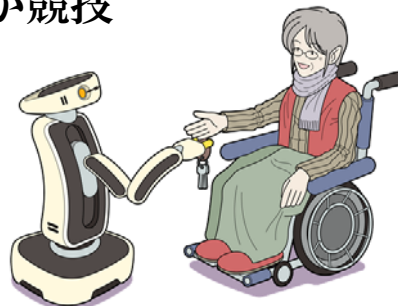
■ ファイナル (Final – Show me the future)

- スキルチャレンジ上位7チームによる、ロボットの未来の姿のデモンストレーションと質疑応答 (英語)
- 技術性新規性・デモの難易度と達成度、実用性、社会的なインパクト等、多様な面からの採点

2

Bring Me (あれ、取ってきて)

- オペレータが指示する物体を探して取ってくる。
- 指示された物体がオペレータに手渡しされた、もしくはオペレータ付近の指定されたエリアに入ればタスクが完了。
- タスクの達成度に応じて点数が与えられる
- 同時に2チームが競技



Bring Me (あれ、取ってきて)

<http://worldrobotsummit.org/wrc2018/service/>

3

Tidy Up Here（お願い、片付けて）

- 散らかっている物体を片付ける。
 - Stage 1：所定の位置に片付ける
 - Stage 2：必要に応じて片付ける位置をオペレータに確認しながら片付ける
- タスクの達成度に応じて点数が与えられる



Tidy Up Here（お願い、片付けて）

<http://worldrobotssummit.org/wrc2018/service/>

競技の特徴

- 同一のロボット（標準プラットフォーム）を用いて競技を行う
 - トヨタ自動車㈱の開発したHSR（Human Support Robot）を利用
 - スキルチャレンジでは、1台のノートPCのみ追加利用可能。新たなセンサ等の機器の追加はできない。
- ソフトウェアの優劣を競う
 - 多様な機能を実現するソフトウェアモジュールを開発し、組み合わせて全体のソフトウェアを作る
 - ・ 物体認識
 - ・ ハンド動作計画
 - ・ 音声認識
 - ・ 位置認識，自律移動

■ 14チーム（日本5，日本以外のアジア4，北米3，ヨーロッパ2）

チーム名	国籍・地域	所属
Dong Yang	Thailand	Prince of Songkla University
EPANer	France	University of Technology of Belfort-Montbéliard (UTBM)
RoboCanes	U.S.A.	University of Miami
ORlon	United Kingdom	Oxford Robotics Institute, University of Oxford
PUMAS	Mexico	Autonomus National University of Mexico
OIT Challenger and Duckers	Japan	Osaka Institute of Technology
SUTD Singapore	Singapore	-
JSK	Japan	JSK Lab/The University of Tokyo
eR@sers	Japan	Tamagawa UNIV.
Team Northeastern	U.S.A.	Northeastern University
AIISL-TUT	Japan	ToyoHashi University of Technology
Tidyboy	South Korea	Pusan National University
Hibikino-Musashi@Home	Japan	Kyushu Institute of Technology
PutraBot	Malaysia	Universiti Putra Malaysia

http://worldrobotssummit.org/wrc2018/teams/#partner_robot_challenge_real

6

チーム AIISL-TUT

■ 豊橋技術科学大学 情報・知能工学系 行動知能システム学研究室（三浦研究室）のメンバで構成

- リーダー：Liliana Villamar Gómez（D1）
- 副リーダー：松崎成道（M1）
- 松下正忠，眞野千輝，藤本宥紀（以上M1）
- 三浦教授

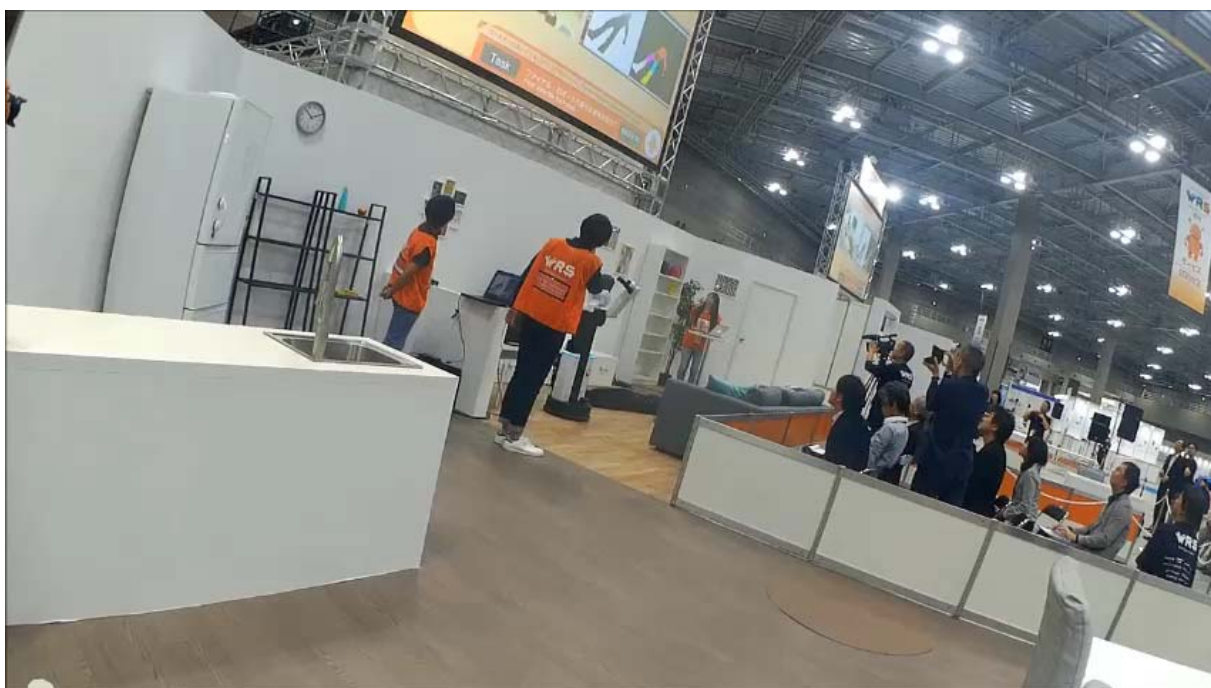
7

競技の様子 (Bring Me タスク)



8

競技の様子 (Show me the future)



9

最終成績と表彰

- 総合3位（WRS実行委員長賞）
- 人工知能学会賞



10

まとめ

- 競技会の意義
 - 近い将来に達成したいロボットのタスクを設定し各チームが競い合うことにより
 - ・ 個々の技術レベルの向上
 - ・ 将来目指すべき方向や現状の課題の共有と議論の促進を図る
 - 研究室の研究成果の実践の場として利用
- 今後について
 - World Robot Summit 2020 が2020年10月に愛知県国際展示場で開催
 - 今回同様の競技会が開催予定
 - 次回も参加予定

11



平成30年10月23日

マレーシア科学大学・マレーシアクランタン大学と共同で
グローバルサマースクールを開催しました

<概要>

9/8～9/24、マレーシア科学大学およびマレーシアクランタン大学と共同でグローバルサマースクールを開催しました。英語力はもとより総合的なグローバル・コミュニケーションスキルを身につけるのがこのプログラムの目的で、今年で5回目の開催となります。学生達はグループに分かれ、現地の小学生・大人とジャングルの先住民に対して認知実験を実施しました。実験結果についてディスカッションを行い、得られた知見について発表を行いました。さらに、現地の多宗教・多文化が反映された文化財や、異なる背景を持った人々がコミュニケーションを取り共存する姿に触れ、これから日本でより重要となるダイバーシティ(多様性)を持った社会のあり方について考えました。現地での取り組みの様子をビデオにまとめ、近日公開予定です。その他詳細は定例記者会見にて披露いたします。



本件に関する連絡先

担当：リーディング大学院教育推進機構 事務局 TEL:0532-44-1028
広報担当：総務課広報係 菅谷・高柳・梅藤 TEL:0532-44-6506

マレーシア科学大学 マレーシアクランタン大学と共同開催 グローバルサマースクール

定例記者会見 2018年10月23日

No. 1

博士課程教育リーディングプログラムとは

「博士課程教育リーディングプログラム」は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え、広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する事業です。

「日本学術振興会HPより」

全国 62プログラム

- オールラウンダー型 7プログラム
- 複合領域型 40プログラム
- オンリーワン型 15プログラム

豊橋技術科学大学 リーディングプログラム

「超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成」

- ▶ 私たちの脳を切り口として機械工学，情報工学，社会・環境工学，生命工学などの研究分野をさらに深化させられる人材の育成を目的とする。

No. 2

採択拠点大学（H23～H25）



採択拠点数：30大学（62プログラム）

複合領域型（情報）：東京大学，京都大学，大阪大学，筑波大学，名古屋大学，**豊橋技術科学大学**，早稲田大学

博士課程教育リーディングプログラムとは

「博士課程教育リーディングプログラム」は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え、広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する事業です。

「日本学術振興会HPより」

全国 62 プログラム

- オールラウンダー型 7 プログラム
- **複合領域型 40 プログラム**
- オンリーワン型 15 プログラム

豊橋技術科学大学 リーディングプログラム

「超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成」

▶ 私たちの脳を切り口として機械工学，情報工学，社会・環境工学，生命工学などの研究分野をさらに深化させられる人材の育成を目的とする。

ブレイン情報アーキテクト育成のねらい



Photonic神経活動
イメージング



Optogenetics



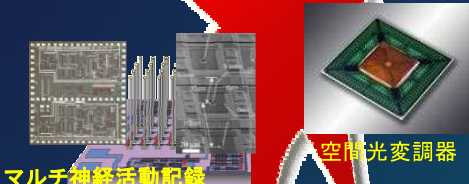
神経科学、メディカルフォトニクス
(生理学研究所、浜松医科大学)

情報エレクトロニクスを駆使して
脳を学ぶ

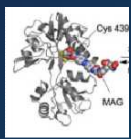
新しい革新的情報技術を
脳に学ぶ



脳科学を深化させる
情報技術を創る



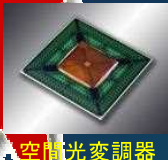
マルチ神経活動記録
デバイス(Toyohashi Probe)



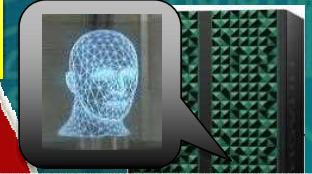
ナノマシン/
マーカー技術



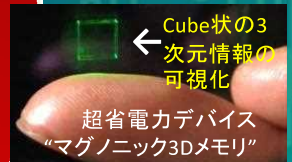
Hイメージング
デバイス



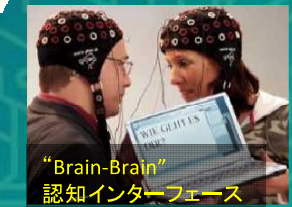
空間光変調器



ヴァーチャルブレイン
HPC、ビッグデータ解析
(本学次世代シミュレーション技術、
国立情報学研究所、等)



Cube状の3
次元情報の
可視化
超省電力デバイス
“マグノニック3Dメモリ”



“Brain-Brain”
認知インターフェース

浜松医科大、生理学研究所、応用脳科学コンソーシアム等
との外部連携によるブレイン情報教育研究力の強化

H30年度 グローバルサマースクール (博士前期1年必修科目)

時期：2018年 9月8日～9月24日

目的：グローバルコミュニケーション力と
グローバルな環境における計画遂行能力の体得

内容：

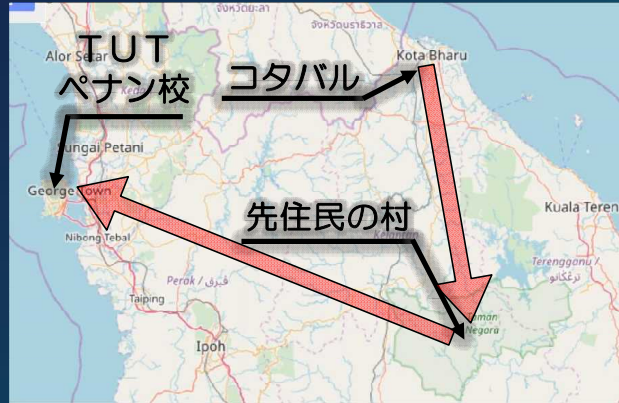
- ・ 地元小学生、大学生とジャングル先住民への脳科学
フィールド実験
- ・ ジャングルトレッキング
- ・ 本学マレーシアペナン校においてマレーシア科学大学
(USM)とマレーシアクランタン大学(UMK)の学生と
ディベート合宿



グローバルサマースクール活動紹介



豊橋技術科学大学ペナン校



© OpenStreetMap contributors



ジャングルトレッキング



脳科学フィールド実験の様子



実験結果の報告



国立大学法人豊橋技術科学大学 *Press Release*

平成30年10月23日

TUT グローバルハウスと地元企業との交流会 第3弾！ 「レコグナイト RecognNight」開催のお知らせ（with 豊橋鉄工会）

<概要>

平成29年度よりスタートした、外国人留学生と日本人学生がともに暮らすシェアハウス型宿舎「TUT グローバルハウス」。この「TUT グローバルハウス」が主催する企業交流会の第3弾を以下の通り開催します。

イベント名：レコグナイト RecognNight

（「認識する Recognize」と「～の夕べ Night」を合わせた造語です。）

日 時： 平成30年10月25日（木）18：00～20：00

場 所： 豊橋技術科学大学 福利施設棟 ひばりラウンジ

内 容： 地元企業とグローバルハウス居住学生を中心とする技科大生との交流会の第三弾。今回は豊橋鉄工会（※1）所属企業の経営者・経営幹部と、将来のビジョンやグローバル戦略などについて、軽食をとりながらざっくばらんに意見交換をします。

参加企業： 豊国工業(株)、(株)丸上製作所、(株)野口製作所、トピー工業(株)豊橋製造所、(株)テッシン

参加者： TUT グローバルハウス居住学生（日本人・外国人）、国際コースの留学生、教職員、の約50名が参加予定

※1…自動車関連、機械設備などの部品加工業を営む中小製造業が主要メンバー。
昭和32年6月設立、会員数107社、会長は山内有恒氏（豊国工業(株)代表取締役社長）。

<詳細>

豊橋技術科学大学は、平成29年度に、グローバル社会で活躍する意欲を持つ日本人学生と外国人留学生のためのコース「グローバル技術科学アーキテクト養成コース（Global Technology Architects Course: GAC）」を新設しました。GACの学生は、外国人留学生と日本人学生がともに暮らすシェアハウス型宿舎「TUT グローバルハウス」に居住し、様々な交流イベントを企画・運営・参加していくことで、多様な価値観の下での課題解決能力や世界に通用する人間力を養います。

TUT グローバルハウスでは、昨年度より企業交流会を主催しており、学生、参加企業ともに得るものが多いと好評です。第一回は、昨年12月14日に武蔵精密工業株式会社と、第二回は2月16日にイノチオホールディングス株式会社と行いました。

今年度はイベント名をレコグナイト RecognNight（グローバルな視点で認識する（Recognize）する夕べ（Night））と名付け、新たに発足した「グローバルハウス学生

会（Global House Student Committee: GHSC）」が運営を行います。

第三回企業交流会には、豊橋鉄工会に所属する企業5社から経営者・経営幹部をお迎えします。グローバルに活躍する中小製造業企業のトップから、直接将来のビジョンやグローバル戦略などについて聞くことができる、学生にとってまたとない機会となります。参加学生は日本人、外国人留学生の両方で、日本語・英語のバイリンガルで進行を行います。豊橋鉄工会からはハラル対応の軽食が提供され、学生と企業参加者が同じテーブルで食事を囲みながら、なごやかな雰囲気意見交換を行います。

本件に関する連絡先

担当：国際課 堤／竹川 TEL:0532-81-5182

広報担当：総務課広報係 菅谷・高柳・梅藤 TEL:0532-44-6506

TUTグローバルハウスと地元企業との交流会 第3弾！

「レコグナイトRecogNight」 開催のお知らせ (with豊橋鉄工会)

グローバルハウス学生会
(Global House Student Committee: GHSC)

国立大学法人
豊橋技術科学大学

グローバルハウス



- ✓ 日本人と留学生の5人1組で生活
- ✓ 4棟・約120人が生活
- ✓ 2019年度, 全6棟が完成

学生主体による宿舎の自治 → レジデント・アシスタント制度
学生主体によるイベント等の企画 → GHSC
(Global House Student Committee)

国立大学法人
豊橋技術科学大学

地元企業と“学ぶ”



2017年12月
武蔵精密工業

2018年2月
イノチオHD
「豊橋ベジナイト」



国立大学法人
豊橋技術科学大学

地元企業と“学ぶ”

2017年12月
武蔵精密工業

2018年2月
イノチオHD
「豊橋ベジナイト」



2018年10月
豊橋鉄工会



- ✓ 軽食等を交えながら、企業と学生が“互いを知り・学ぶ”機会
→就活とは一線を画す、カジュアルな場
- ✓ グローバル社会に向けた地元企業と学生の立ち回りを知る
→学生は進路、企業は採用方針等の検討につながる

国立大学法人
豊橋技術科学大学



Toyohashi is Changing The World
with their local companies

グローバル・ハウスと地元企業との交流会 第3弾！

今回は、10社近くの社長/経営幹部をお招きし、
彼らからface to faceで話を聞くことができます
日本のものづくりを支える豊橋の企業
彼らが持つ将来のビジョンやグローバルな戦略を
認識(recognize)する夜を過ごしましょう！！



主催：GHSC, 豊橋鉄工会

日時：10月25日(木) 午後6時～午後8時

場所：福祉施設2F ひばりラウンジ

軽食の提供あり **失着40名！！**

※参加を希望される方は左のQRコードから登録を行い、
アンケートにご協力をお願いします



国立大学法人豊橋技術科学大学 *Press Release*

平成30年10月23日

国際交流関係のお知らせ

<お知らせ①>

豊橋3大学学生まちづくりハッカソン 9月29日(土) GAC 学生が運営に参加しました

- ・今年度のテーマは「国際化」
- ・豊橋市における国際化事業関係者による講演のほか、実際に街で活動をされている方々と共にフィールドワークを実施
- ・10月28日(日)の発表会に向け、各チームは鋭意活動中

<お知らせ②>

豊橋鉄工会と GAC グローバルハウス居住学生及び留学生との交流会を 開催(予定)

- ・日程: 10月25日(木) 18:00~20:00 @ひばりラウンジ

<お知らせ③>

International Understanding Forum 開催(予定)

- ・10月21日(日) @グローバルハウス アセンブリールーム
- ・9月30日(日)の台風のため延期となっていたが、日を改めて開催

<お知らせ④>

グローバルハウス主催スポーツ大会開催(予定)

- ・日程: 11月10日(土) @体育館
- ・グローバルハウスにおけるユニット活動として、学生が主催するスポーツ大会を開催予定
- ・バドミントン、フットサルのほか、外国スポーツも取り入れ、グローバルハウス居住学生、留学生会館居住学生との交流を図る

これらについて、取材の希望等がありましたら以下までご連絡ください。

本件に関する連絡先

担当: 国際課留学生係 TEL:0532-44-6546

広報担当: 総務課広報係 菅谷・高柳・梅藤 TEL:0532-44-6506



豊橋技術科学大学

Prestige Lectures
プレステージ レクチャーズ



技術を究め、技術を創る

国立大学法人

豊橋技術科学大学

豊橋技術科学大学

第16回 プレステージレクチャーズ

デザイン戦略で脱下請け！ ブランド企業への躍進！

講師

本多 孝充 氏

本多プラス株式会社
代表取締役社長



ひと
『他人のやらない事をやる』

1969 年愛知県新城市生まれ。

Lord Ashcroft International Business School(英)MBA 卒。

ドイツのプラスチック成形メーカーにて研修後、1997 年本多プラス株式会社に入社し、取締役経営企画室長 兼 営業本部長に就任。

代表取締役専務を経て 2011 年 12 月、代表取締役社長に就任。

2017 年 11 月 28 日に開催された、新たな事業に挑戦するアントレプレナーの努力と功績を讃える国際的な表彰制度『EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー 2017 ジャパン』日本大会にて、アクセラレーティング部門大賞、グローバル・エクスペリエンス・モナコ賞を受賞。

概要

本多プラス株式会社は1946年(昭和21年)創業。空気で樹脂を膨らませる『小物ブロー成形』のパイオニア企業です。化粧品、医薬品、工具、文具や食品など、様々な分野・製品のプラスチックパッケージを製造しています。

『他人のやらない事をやる』をモットーとし、下請け企業に甘んじる事なく『クリエイター型企业』を目指し、デザインを経営戦略に取り入れ、『技術と感性のコラボレーション』を実現すべく、商品企画、デザイン、金型・装置製作、量産までワンストップで内製する体制を整え、高機能かつクリエイティブな製品を、社会に提供しています。

容器・パッケージデザインの分野において、『日本パッケージデザイン大賞金賞』をはじめ、高く評価されています。また近年では『サステナビリティ』をテーマにしたパッケージデザインの開発や、再生 PET 樹脂を使用した自社ブランド『ame』の開発に力を入れております。下請け企業を脱し、ブランド企業へと躍進させた経営改革についてお話いただきます。

日時

平成30年11月15日(木) 14:40~16:10

場所

豊橋技術科学大学 ● A2-101講義室

聴講自由



フライン情報アーキテクト
豊橋技術科学大学

後援

豊橋商工会議所

社会人キャリアアップ連携協議会

本件問い合わせ先

豊橋技術科学大学 総務課総務係 電話 0532-44-6504

平成30年度 定例記者会見日程予定

第1回 平成30年 4月24日（火） 11：00～

第2回 平成30年 5月15日（火） 11：00～

第3回 平成30年 6月19日（火） 11：00～

第4回 平成30年 7月31日（火） 11：00～

第5回 平成30年 9月18日（火） 11：00～

第6回 平成30年10月23日（火） 11：00～

第7回 平成30年11月20日（火） 11：00～

第8回 平成30年12月18日（火） 11：00～

第9回 平成31年 1月22日（火） 11：00～

第10回 平成31年 2月19日（火） 11：00～

場所はすべて本学大会議室（事務局3階）を予定しています。場所、日程は現時点での予定であり、都合によって変更の場合があります。定例以外に臨時で記者会見を行う場合があります。

以上